

日本通運 邦人初のQEPを成田・羽田・関空で取得 エンバイロテイナーの定温コンテナ管理の基準で

日本通運はさきごろ、成田・羽田・関西の3空港において温度管理コンテナ製造のエンバイロテイナー社が開発した民間認定資格であるQEP (Qualified Envirotainer Provider) を、日本のフォワーダーとして初めて取得した。

成長市場の医薬品に不可欠の温度管理

このQEPとは、エンバイロテイナーが民間認定資格として開発・導入したもので、温度管理コンテナの取り扱いに際して、主に医薬品業界で用いられる物流に関するガイドライン= GDP (Good Distribution Practice) に基づいて作成したもの。適切な温度管理を実施しているかはもちろん、それに関する社員教育が継続的に実施されているかどうかについても企業を評価して、同基準に合致していれば当該フォワーダーをQEP認定するシステム。

現在、医薬品・ヘルスケア商品は航空貨物として最も成長性の高い分野とされており、税関統計をみても毎年、前年比で2ケタのカーゴフロー増がある超有望なマーケットであることは、よく知られている。

しかし、一方でそうした医薬品・薬剤に代表される“温度センシティブな貨物”についての扱いは極めて難しく、キャリア/フォワーダーともに輸送中の定・低温管理には極めて神経を使うカーゴでもある。そこで世界的に脚光を浴びてきたのが、エンバイロテイナー社が世界中で供給している高品質温度管理コンテナだ。

今回、日通は、エンバイロテイナーの品質基準による温



度管理のトレーニングを受けたほか、輸送中の温度品質維持の教育コースも終了したことで、エンバイロテイナーからQEP認定を取得したため、同社との間で温度管理コンテナに関わるマスター・リース契約を結び、今後、エンバイロ・パートナーとして同社製特殊(温度管理)コンテナの運用を開始したわけである。

日通では今後、海外の各法人・支店でもQEP認定の取得を図り、温度管理コンテナを運用できる拠点ネットワークを世界に拡大していく構えである。

□日通が今回QEP認定を取得した拠点

- 東京航空支店 Narita Aircargo City: 千葉県成田市新泉30
 - 東京空港支店羽田センター: 東京都大田区羽田空港2-6-3
 - 大阪空港支店 KIX Hi-Speed Logistics Hub: 大阪府泉南空港南1
- 成長分野だけに、他の有力フォワーダーも次々、こうした動きにはフォローしていくのではないかと見られる。

平野ロジス 業界初! ULD×5枚積みのトラックを開発 8月中には成田～羽田間の保税転送サービスに投入へ

ことし創業50周年を迎えた空港間OLT輸送(保税転送)の老舗・平野ロジスティクス(本社:神戸市)——同社が満を持して開発したのが、96インチパレット仕様のULDを5枚積載可能なフルトレーラ車「+2」(プラス・ツー)だ。従来のトラックは3枚積み主流だが、今回開発された「+2」はその名の通り、2枚多く輸送できる。

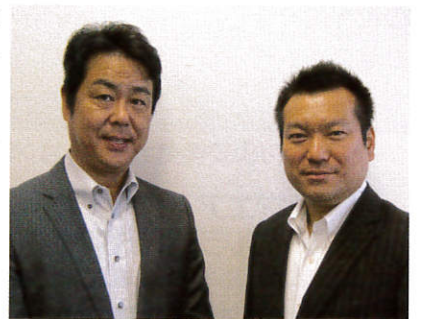
4枚積載可能な「+1」も9月に納車予定

これまでULD5枚積みトレーラが登場しなかったのは、道路運送車両基準(特大車は全長19m以内)をクリアすることが難しかったという背景がある。

開発にあたった益子研一・関東支店長(写真右)は、「構想・設計に1年、製作に1年と2年かけて「+2」は完成しました。例えば、全長を19m以内に収めるために、ドライバーの寝台部を頭上に配置することでトラックキャブを短縮化したり、トレーラの連結部を下に潜らせるなど、様々な工夫を行いました」と、難題挑戦の日々を振り返る。



神戸本社の高瀬英二・常務取締役輸送本部長(写真左)も、「当社は50年前から空港間OLTを行ってきており、今や主流となったULD積載トラックも当社が他



社に先駆けて開発したものです。今回の5枚積み「+2」でも、連結される6.4mのトレーラ荷台部分(ULD2枚積み)は自社開発したもので日本で初めてのものと語る。すでに、試験走行をスタートしており、8月中には成田空港～羽田空港間のOLT輸送に投入する予定という。

また、平野ロジスでは「+2」に続いて、パレット4枚積載可能な「+1」も開発中で、こちらは9月ごろ納車される予定。「+2」は特大車に区分されるが、「+1」は大型車の区分で、高速道路の通行料金も大型車と同じ。成田と、中部/関西/福岡の各空港間のような距離の長い輸送には、この「+1」がぴったりということだ。

高瀬常務は、「現在、GSA(総販売代理店)を含めて38社の航空会社にご利用いただいておりますが、今後とも、物流の効率化や環境対応といった観点から新型車両の開発がより重要になってきます。OLT輸送のリーディング・カンパニーとして、物流効率化を図ることで、今後ともエアカーゴ業界に貢献していきたい」と熱っぽく語ってくれた。

地球温暖化など環境配慮への意識が高まるなか、地球の未来を考えたら『エコツウ』になりました。

低炭素社会実現に向けて取り組む日本通運は、CO₂オフセット型国際輸送商品「エコツウ」を開発しました。

商品概要
日々の出荷が環境保全活動に。国際航空輸送で排出されるCO₂をオフセットし、低炭素社会の実現に貢献致します。(当社混載AWB利用)

お手続き
お手続きは簡単!お客様は出荷のご依頼のみで、日通が出荷ごとにCO₂を見える化、オフセットの手続きを致します。手数料は一切頂けません。

信頼性
第三者機関(気候変動対策認定センター)の認定を受けて、カーボン・オフセットサービスの信頼性を確保しています。

証明書
「エコツウ」ご利用後、月ごとにオフセット量を集計し、証明書を発行致します。証明書はCSR活動の報告にもご利用頂けます。

認定番号: 4CJ-1100070
気候変動対策認定センター
ウェブサイトアドレス
http://www.4cj.org/
認定取得者: 日本通運株式会社

日通航空
NIPPON EXPRESS

※日通航空は日本通運の航空事業部です。

Total Logistics Solutions
= Services × Global Network × Proposal Capability

運びたいモノを

運びたい場所へ。

お客様ごとの事業特性や地域特性をふまえ、グローバルで高品質な総物流を実現します。

商品・貨物の集荷から、倉庫での保管、検品・仕分け・ラベリングなどの物流加工、指定先への配送、輸出入手続き、フォワーディング、ITによるサプライチェーンマネジメントサービスまで、丁寧に、速く、力強く、物流のあらゆるニーズに応える総合力が私たちにあります。

Yusen Logistics
郵船ロジスティクス株式会社
http://www.jp.yusen-logistics.com/